

## 指宿・知覧・屋久島の旅



川島 順

予科 21-7

航空 7-1

(越谷市)

平成 11 年陸士 60 期宮崎総会は 11 月 28 日の夜成功裡に幕を閉じた。総会の報告はやがて“花だより”などで紹介されることであろう。小生はエクスカージョンの第6コースに参加したので、その概要をこの紙面を借りてご報告する。

初日の 11 月 29 日は絶好の行楽日和り、全国総会の行なわれたシーガイアを後にして、3台のバスに分乗した『指宿・知覧と世界遺産屋久島』ツアーの総勢 86 名は、霧島スカイラインを一路、鹿児島に向かった。えびの高原に差しかかると、緑で覆われた高原の彼方に一際目立つ高千穂の峯が聳えていた。これが天孫降臨の高千穂かと思うと、古代の神々の姿が彷彿としてなにかロマンチックな気分になってきた。

高速道路の終わりに近付くと、よく晴れた空をバックに薄く煙を棚引かせた桜島が錦江湾の彼方に聳えているのが見えてきた。バスガイドの西郷南州と月照和尚の投身自殺や坂本竜馬の新婚旅行の話に耳を傾けているうちに鹿児島郊外に差しかかる。「あれが西郷さんの住んでいた家ですよ」とのガイドさんの声に乗り出して見ると小さな藁葺きの家が通り過ぎていった。

昼近くなり、第1目標の鹿児島磯庭園に到着。ここは幕末維新期に島津斉彬が造った集成館という工場群の後を、大正時代に博物館として整備したもので、当時は、反射炉、溶鋳炉、ガラス工場、鉄工場等を擁し、水力発電所までも備えた近代的な軍事産業の基地であった。集成館の一隅に弥助砲という大砲が展示されていた。これは大山巖が弥助といわれた若い頃、日本人の体格に合うように改良した大砲で、大小2門並べてあった。大山元帥が日露戦争で卓越した戦争指導を行なったのも、このような技術の専門家としての素養があったからであろうと勝手に想像した。

次に訪れた知覧町は薩摩の小京都と云われるだけあって、日本庭園を備えた武家屋敷の周囲には瓦を乗せた土塀と緋鯉の泳ぐ清流の掘割りが巡らされ、特攻基地の名称とはかけ離れた趣をしていたが、知覧特攻平和記念館が近付くにつれ道路の両側には灯籠が立ち並び、なにやら辺りの空気が張りつめてきた。この灯籠は千数百名にも及ぶ散華された特攻隊員の数だけあるという。

平和記念館は、土産物店が立ち並び真っすぐな桜並木の終点の左側にあった。



知覧特攻平和記念館

この桜並木は嘗ての飛行場の滑走路の跡とのこと。そういえば右手には大きな野球場が左手にはグランドらしいものがあり、当時の地図と照らし合わせるとそれぞれ、弾薬や燃料の集積地、飛行機の退避壕があった所と思われる。その一隅には機銃の跡がはっきりと残されたコンクリート造りの弾薬庫が一つだけ残されていた。

記念館内に入ってまず目を惹いたのは1台のグランドピアノ、これは音楽学校出の隊員が最後の夜に、近くの国民学校のピアノを借りて「月光の曲」を弾いたフッペルという有名なピアノ。集まった先生や生徒達は目に一杯の涙を浮かべながら「海ゆかば」を斉唱して特攻隊員を見送ったといわれている。

館内には、特攻に使われた隼、3式戦、4式戦が展示され、部屋の壁や机の上には特攻隊員全員の写真や遺品が所せましと並べられていた。また、当時の生活を偲ばせるスナップ、女学生と談笑している隊員、特攻小母さんとの記念写真、乾杯している隊員等々、何れも屈託ない笑みを浮かべ、これから死に赴く人とは思われないほど明るく元気潑刺とした姿には、むしろ神々しくさえ思われた。



記念館特攻機の前で

見学を終わって旅館に向かうバスのなかで、まだ童顔の抜けきらない勿論戦争を全く知らない若いガイドさんが、特攻小母さんの鳥浜とめさんから伝え聞いたという隊員のエピソードをメモを頼りに一生懸命話しているのを聞いているうちに胸が熱くなり、涙が溢れ出るのを禁じることができなかった。

さて、初日の宿は**指宿の白水館**、すばらしい和風の温泉旅館で、自慢の砂むし温泉、元禄風呂で旅の疲れを癒した。大広間での夜の宴会が大いに盛り上がったことは云う迄もない。



指宿の白水館

2日目はいよいよ待望の**屋久島**へ向け、高速船トッピー号で指宿港を出発。時速80Km、ほとんど揺れない極めて快適な船旅で、1時間半で丁度富士山の頭だけを海に浮かべたような屋久島に到着。昼食後直ちに、観光バスで屋久杉ランドに向かう。約1000mまでバスで登る。道路は狭いとはいえ全行程舗装され、左手の山側はほとんど垂直に近い斜面に松、杉、つが、もみ等の樹木がへばりついて繁茂している。右手の谷側は数百m下の谷川まで、一直線に石ころだらけの川が下っている。途中野猿に会う。

屋久杉ランドの入り口でバスを降り、いよいよ徒歩で屋久杉の森林を見学する。通路は全て木造の階段が整備され、スーツ姿でも歩行可能であった。約 30 分の初心者向けの我々のコースでも、屋久杉の大木、くぐり杉、双子杉、秀吉時代に切り捨てられた土埋木、直径 2~3m もあるつがの大木等、屋久島の自然を十分に堪能することができた。



陸士 60 期生会御一行様 平成 11 年 11 月 30 日 屋久島・紀元杉 (樹齢 3000 年)

屋久杉ランドの出口からさらに 1200m までバスで登る。バスで行ける最大の屋久杉、紀元杉を見学。樹高約 20m、胸高周囲 8m、樹齢 3000 年の老木、木の頭は無惨にも折れ、そこから大きな枝が 2 本横に突き出ている。そこで全員記念写真を撮る。



屋久島 夫婦杉

縄文杉はこの 3 倍もあるという。縄文杉が見られるのではないかと淡い期待を抱いていたが、プロでもここから片道 4 時間かかると聞かされて納得する。

2 日目の宿は、屋久島岩崎ホテル、予想

に反して超近代的な洋式のホテルで、日本のマッターホルンといわれる岩山のモッチャム岳の麓に潇洒な姿を横たえている。ロビーに造られた屋久杉のモニュメントは実物以上のすばらしいものであった。

バンケットルームで最後の会食を楽しんだ後、更けゆく南国の秋の夜を慈しみながら床についた。